

えりも沿岸域におけるブルーカーボンによる CO₂ 吸収量推計検討会を開催しました！

えりも町 産業振興課
北海道開発局 港湾計画課



検討会の様子



ドローンによる藻場調査実演の様子

令和5年6月6日(火)、天然コンブ漁場におけるブルーカーボンによるCO₂吸収量の把握を目的として、「えりも沿岸域におけるブルーカーボンによるCO₂吸収量推計検討会」(事務局：えりも町、北海道開発局)の第1回会合をえりも町役場庁舎にて開催し、事務局のほか、寒地土木研究所、北海道大学、えりも漁業協同組合等の関係者約25名が参加しました。(座長：北海道大学MDSセンター 中前茂之特任教授)

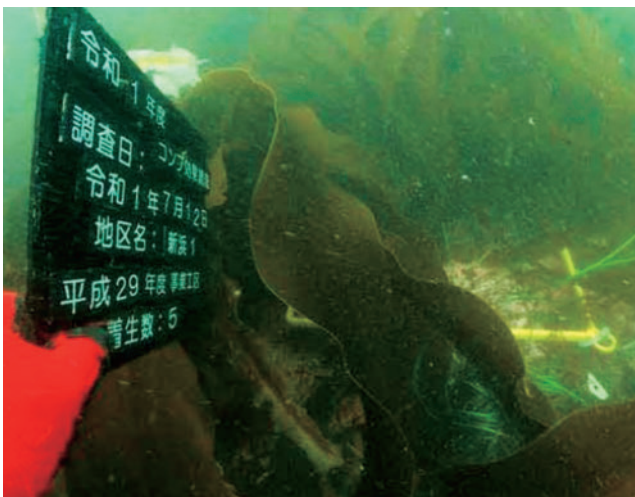
現地調査については、6月中に藻場の潜水調査とドローンによる空中撮影を実施し、年内にCO₂の年間吸収量を算出するスケジュールであることを確認しました。なお、ドローンによる調査の範囲については、本年度はコンブの生育を促進するために雑海藻を駆除しているえりも町沿岸の藻場約11.5ha(7地区)です。

また、本取組を体験旅行や藻場の資源管理に活用するなどのブルーカーボンの付加価値向上の方策について議論しました。

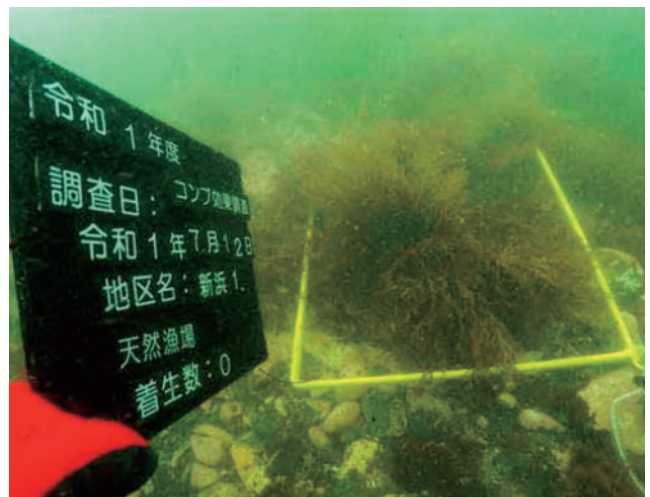
北海道大学情報科学研究院 小川貴弘教授からは、AIを用いた藻場の判別に向けた方向性の説明があり、システム開発する上で重要なポイントは、ドローン画像データの取得の統一性の担保や学習データの多様性の検証とのことでした。

検討会終了後には、えりも町職員によるドローンを使用した藻場調査のデモンストレーションを行いました。

今後は、9月上旬を目途に海藻類の吸収係数やブルーカーボン量の算出を行い、12月上旬までにAIによる画像解析システム開発を進める予定です。また、Jブルークレジットの可能性の検討も進めてまいります。



雑海藻駆除実施区の様子



雑海藻駆除未実施区の様子